

花×インテリア雑貨 石川のアプラス、百貨店向け店舗

環境エネ・素材 [+ フォローする](#)

2022年4月3日 5:00



インテリア雑貨を企画・販売するアプラス（石川県加賀市）は大都市圏の百貨店を対象に、フラワーアレンジメントを中心としたインテリア雑貨店の展開を始めた。「花のある暮らし」がコンセプトで、石川県の山中漆器や九谷焼をはじめとするインテリア雑貨も扱う。2022年内に3店を計画しており、女性を中心に顧客を開拓する。



大丸京都店の日用品売り場内に出店した（京都市）

アプラスは大丸梅田店（大阪市）でインテリアフラワー店「ドゥシュール」を運営する。生け花を再現したアーティフィシャルフラワーなど生花以外を扱う。その2号店を3月、大丸京都店（京都市）内に出店。花だけでなく、インテリア雑貨を加えた新たな取り組みを始めた。

花を飾るための器、花を見ながら味わうためのハーブティーといった食品なども販売する。器の中には九谷焼や山中漆器もあるが「伝統的なものではなく、石川県のデザイナーが手掛けた新しい感性を持った現代風を扱う」（坂本博胤社長）考えだ。商品構成は花類が7割、インテリア雑貨が3割。販売価格は花が3000円程度からを計画する。



石川県のデザイナーが手がけた器と花を組み合わせるライフスタイルを提案する

ポップアップストア（期間限定店）も始めた。丸井のマルイファミリー溝口店（川崎市）や国分寺店（東京都国分寺市）、大丸札幌店（札幌市）などで計画 중이다。期間は2週間程度。利用客が多い店舗について常設化を目指す。22年は大丸京都店と期間限定店2店の計3店を予定している。百貨店での新たな事業で22年中に1億3000万円の売り上げを目指す。

アプラスは20年12月、ドゥシュール1号店を大丸梅田店に出し、インテリアフラワーの販売を始めた。どのように飾るか悩む顧客が多いことが分かり「飾るための器を含めたライフスタイルの提案も考えた」（坂本社長）という。同店でもインテリア雑貨を増やしていく考えだ。

SDGs（持続可能な開発目標）経営の一環でもある。プリザーブドフラワーは生花を長持ちさせる点で、生花の廃棄削減を通じた環境保護に貢献できる。花と器を組み合わせた商品の場合、花または器のみを交換できる仕組みも計画 중이다。百貨店がSDGsに関心が高いことにも対応する。

同社は01年に会社設立。山中漆器の製造販売から始まり、その後、フラワーアレンジメントを手掛けるようになった。花はギフト商品など法人向けのOEM（相手先ブランドによる生産）が中心だった。21年9月期の売上高は9億円。百貨店向けの新たな事業展開によって早期に10億円突破を目指す。

（石黒和宏）



関連トピック

トピックをフォローすると、新着情報のチェックやまとめ読みがしやすくなります。

+ [石川](#)

+ [北陸](#)

+ [小売り・外食](#)

こちらもおすすめ(自動検索)